

の矛盾性を めるキリスト教学者たち (7/7) : 教会の“神感”による改

4.0

明:真の蔽改における教会の役割とは。

目:[事比 宗教バイブル](#)

より: ミシュアル ブン class=

ED6 Jun 2011

集日 06 Jun 2011



彼らは具体的に何をしたのでしょう? ジョ ジ L ロバ トソン に ねてみましょう。彼は著作
“Where did we get our Bible? (我々の はどこから来たのか?) ”

でこのように述べます:

“ 存するギリシャ の 写本には数千もの 同があるとされている。これらの古く色褪せた物はキリスト教会の有する最古かつ最も 重なる宝となっており、それゆえ特 な 心を引き起こすものでもある。” リチャ ドソンのリストの一番目は“ヴァチカン写本”であり、そこにはこう されている: “これは恐らく 存する数多いギリシャ 写本の中でも最古のものであろう。これは ‘B’ 写本として指定されている。1448年にロ マ教皇ニコラウス5世がロ マに持ち 込み、それ以来ヴァチカン の教皇官らによって手厚い保 を受け 在に至っている。その 史はごく短いものである: エラスムスは1533年にその存在について知

ルカ22:44ではシナイ写本と代で、イエスの前に天使が現れ、力を与えたと述べています。ヴァチカン写本においてはこの天使がなぜか登場しません。もしイエスが“神の子”なのであれば、彼が天使の力を必要とすることは非常に不切でしょう。それゆえ、このシナイ写本は写本作者によるものでなければなりません。

イエスが十字架で言ったとされる言“父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。”（ルカ23:34）は、シナイ写本に元来記述されていましたが、抄写者によってその文が削除されてしまいました。教会による中世においてのユダヤ人への寛容が念にあれば、なぜこの文の存在が教会の公式政策と“矛盾”にあって都合の悪いものだったかが分かるでしょう。

シナイ写本におけるヨハネ5:4の欠如。

マルコの第9章における“地では蛆が尽きることも、火が消えることもない。”というくだりが欠落しています。

ヴァチカン写本とシナイ写本の双方では、マタイ5:22の“理由なしに”という言葉が欠落しています。

代のマタイ21:7ではこう記述されています：“（弟子たちは）ろばと子ろばを引いて来て、それらの上に服をかけると、イエスはそれにおりになった。”元来の写本では、“イエスはそれらにおりになった”となっています。しかしイエスが同時に二匹の物に上ることが一部で記述を呼び起こしたため、この文は“イエスはそれにおりになった”（どちらにでしょうか？）に変更されました。

代 のマルコ6:11では、“はっきり言うておく。裁きの日には、この町よりもソドムやゴモラの地の方が い で む。”とされていますが、このくだりはキリスト教 写本のふたつの古代写本のどちらにも されておらず、数世 にテキストに追加されたものなのです。

マタイ6:13の、“王国と力と えとは永 に汝のものなればなり”というくだりは、これらふたつの古代写本、またその他多くのものにも されていないものです。ルカの同 のくだりも不 のあるものです。

代 におけるマタイ27:35では、“言者の言 を させるため、彼らはいくじを引いて私の服を分け合い”とありますが、ここでも、メリル によれば、9世 以前のアンシアル 体の写本には存在しなかったものです。

第一テモテ3:16では元来、“信心の秘められた真理は かに 大です。すなわち、それは肉において れ”となっていました。に、“信心の秘められた真理は かに 大です。すなわち、神は肉において れ”というように巧妙な改 を受けたのです。こうして “ (神が人 の姿で れること) ” の教 が 生じたのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2666>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。